

岐阜県医師会 新型コロナウイルス感染症通信【5号】

国内7都府県で緊急事態宣言が発令されました。岐阜県においても患者発生が急速に増加傾向です。岐阜大学病院の医師も感染が判明し、4月4日から19日まで外来診療や救急診療が原則休止となっています。

県内の累計患者数は、4月15日現在で130例となり、うち岐阜市に住所を有する者が59名です。4月9日から15日までの1週間で63名の新規患者が発生しています。前週は46名ですので、新規患者の増加傾向は続いています。岐阜市でナイトクラブからのクラスターが最大で、潜龍からのクラスターも発生しています。感染経路不明も増えています。市中での蔓延が懸念されます。 ※県内で発生した患者の詳細は、県庁ホームページを参照してください。

岐阜県においても、感染症指定病院の病床は、ほぼ満床となり、指定病院以外での入院が大多数を占める状況となっています。また、岐阜大学病院をはじめ職員の感染などで外来制限を行っている病院もあり、岐阜県においても医療崩壊が始まりつつあります。

また、通常診療への影響として、外来制限のお願いや予定手術の延期等も始まっています。接触者外来も混雑しており、病院の先生方の肉体的、精神的なご苦労は大変なものになっておるとお聞きしています。

岐阜県医師会としても、この難局を乗り越え、医療の崩壊とならないよう協力体制を作っていくとともに、勤務医の先生方、開業医の先生方、行政の先生方、それぞれのお立場で、岐阜県の医療を支えていくことに、ご尽力下さいますようお願い致します。

<重要な通知>

1：【日本医師会通知】新型コロナウイルス感染症に対するBCGワクチンをめぐる報道について（4/10）

新型コロナウイルス感染症に対するBCGワクチンの効果に係る仮説報道の影響で、同ワクチンの接種歴のない成人等からの接種希望が増加している。BCGワクチンは乳児の定期接種のために製造されており、メーカーが出荷できる量は出生数と同程度で余剰はないことに関する注意喚起の発出がされた。

2：【日本医師会通知】N95マスクの例外的取扱いについて（4/10）

N95マスクの需要の高まりを受けて、使い捨てとされているN95マスクは再利用するなど例外的な取り扱いにより効率的な使用を促進する。

- ・N95マスクはエアロゾルが発生するような手技を行うときのみ使用する
- ・滅菌機活用等による再利用に努める（詳細は、医師会通知を参考にしてください）など

3：【岐阜県後期高齢者医療広域連合】「ぎふ・すこやか健診」の実施延期について（4/13）

延期対象期間：6月実施分まで

4：【日本医師会通知】信用保証協会によるセーフティネット保証5号の対象業種に一般病院、精神科病院、有床診療所、無床診療所等が追加指定された（4/13）

- ・「老人福祉・介護関係」「社会福祉施設等関連」はすでに指定されている。

5：【岐阜県教育委員会通知】学校保健法に基づく児童生徒及び職員の健康診断の実施に係る対応について（4/15）

- ・小中高校および公立幼稚園の健康診断を当面実施しない。再開は改めてお知らせする。
- ・職員の定期の健康診断の実施も児童生徒等と同様の対応とする。

『 宿泊療養施設について 』

現在、岐阜県では、新型コロナウイルス感染患者のうち、無症状者や軽症者のための宿泊療養施設の設置を検討しています。施設が決まりましたら、その所在する地域医師会の先生方と県医師会は綿密に連携を取って対応に当たることとなります。よろしくお願いたします。

岐阜県医師会ホームページ「[新型コロナウイルス感染症関連情報](#)」掲載中！

岐阜医師会では、新型コロナウイルス感染症に関して、情報発信に努めています。本会HPの「[新型コロナウイルス感染症関連情報](#)」又は日本医師会HPのメンバーズルームを随時チェックされることをお勧めします。